# JP1 Oracle Enterprise Manager 通知連携設定手順書

Creation Date: Mar. 19 2009 Last Update: June.23 2016 Version: 2.0

# **Document Control**

Author										
Hajime Obata (Oracle Corporation Japan)										
Change Logs										
Date	Author	Version	Change Log							
Mar. 19 2009	Hajime Obata	1.0	Created.							
June.23 2016	HITACHI, Ltd.	2.0	Edit							
Reviewers										
Name	Position									
Katsuhito Hirai	Oracle C	orporatior	n Japan							
Approvals										
<approver 1=""></approver>										
<approver 2=""></approver>										
Distribution										
Copy No.	Copy No. Name Location									

-JP1 & Oracle Enterprise Manager: Notification Integration -

# 目次

Document Control
• Author
• Change Logs
• Reviewers
• Approvals
• Distribution
目次3
0. はじめに
● 通知連携の概要
<ul> <li>● 通知連携の構成</li></ul>
● 前提5
<ul> <li>JP1 について</li></ul>
<ul> <li>Oracle Enterprise Manager について</li></ul>
1.JP1 の導入
● JP1のインストール
2. Oracle Enterprise Manager の導入
● Oracle Enterprise Manager のインストール
3. 連携機能の設定
● シェルスクリプトの作成
<ul> <li>● 通知メソッドの設定</li></ul>
4. 通知の設定
<ul> <li>● しきい値の設定</li></ul>
● 通知ルールの設定15
参考資料
● JP1 のイベント登録コマンドの使用方法
● シェルスクリプト作成時のポイント・注意事項
● JP1 のイベント登録コマンドの使用方法

## 0. はじめに

当ドキュメントでは、JP1と Oracle Enterprise Manager(以下 OEM)の通知連携の設 定方法について解説します。

#### 通知連携の概要

本通知連携では、OEM がアラートを検知した際に、アラート情報をもとにして JP1 に自動的にイベントを登録します。これにより、OEM による詳細な監視の結 果を JP1 で一元的に管理することができるようになります。

## 通知連携の構成

本通知連携では、OEM が検知したアラートの内容を元に JP1 のイベントを自動 作成します。

OEM は、監視対象でアラートが発生した際に、任意の OS コマンドを実行して 通知を行う機能を持っています。この機能を使用して、アラート発生時に JP1 の イベント登録コマンドを自動実行するよう構成します。

また、OEM は OS コマンドを実行する際に環境変数内にアラートに関するさま ざまな情報を格納しています(例: \$HOST (アラート発生元のサーバー名))。こ れを使用して、JP1 のイベント登録コマンドにアラート重大度やアラートメッセー ジなどを渡します。



本連携の最小構成では、下図のように JP1/Integrated Management (以下 JP1/IM) と Oracle Enterprise Manager 管理サービスを同じサーバーにインストールする構 成をとることも可能です。



## 前提

本手順書は下記の製品およびプラットフォームを前提としています。

- a. Red Hat Enterprise Linux Server release 6.5 にインストールされた JP1/IM -Manager (11-00)、および JP1/Base (11-00)
- b. Red Hat Enterprise Linux Server release 6.5 にインストールされた JP1/Base (11-00)、Oracle Enterprise Manager 13c Cloud Control Release 1 (13.1.0.0)
- c. Red Hat Enterprise Linux Server release 6.4 にインストールされた Oracle Database 12c Release 1 Enterprise Edition (12.1.0.2)、および Oracle Enterprise Manager 13c Cloud Control Management Agent (13.1.0.0.0)
- d. Microsoft Windows 7 Professional にインストールされた JP1/IM-View (11-00)

それぞれの製品が対応している全てのプラットフォームについては、各製品の マニュアル等を参照して下さい。

## JP1 について

ビジネスにおける IT システムの役割が高まるなか、IT システムの運用で は、さまざまなリスクを伴います。リスクを回避するには、システム運用管 理ソフトウェアの導入がカギとなります。 今やビジネスは、IT システムな くして動きません。システム障害による IT システムの停止は、ビジネスの 停止につながります。

また、IT システムは日々高度化、複雑化しています。もはや人手による 対応では、運用コストが増すばかりです。さらに、ウィルス感染や情報漏え いのリスクは高まる一方です。万一、加害者になって社会的信用が失墜して しまったら、ビジネスチャンスの損失は甚大なものになります。

企業のシステムにおけるこれらのリスクなどを回避し、問題解決に役立つ機能 を豊富に取りそろえ、安定した IT システム運用を実現する統合システム運用管理 製品、それが JP1 なのです。

http://www.hitachi.co.jp/jp1/

## Oracle Enterprise Manager について

オラクルの統合エンタープライズ IT 管理製品ラインである Oracle Enterprise Manager は、業界で唯一、すべてを備えたビジネス主導型の統合エンタープライ ズ・クラウド管理ソリューションです。Oracle Enterprise Manager は、従来の環 境およびクラウド環境で使用する Oracle スタックの組込み管理機能を活用するこ とで、IT からビジネス価値を創出し、敏しょう性とサービス・レベルを飛躍的に 上げながら、かつてないほどの効率向上の達成へと導きます。

http://www.oracle.com/technetwork/jp/oem/enterprise-manager/overview/index.html

-JP1 & Oracle Enterprise Manager: Notification Integration -

# 1.JP1 の導入

JP1 をインストールします。

# JP1 のインストール

JP1/Base、JP1/IM-Manager および JP1/IM-View をインストールします。JP1/Base は OEM をインストールするサーバーにもインストールします。 インストールの詳細については、「製品マニュアル」を参照してください。

統合システム運用管理 JP1:マニュアル

http://itdoc.hitachi.co.jp/Pages/document\_list/manuals/jp1v11.html

# 2. Oracle Enterprise Manager の導入

OEM をインストールし、監視ターゲットを検出・登録します。

## Oracle Enterprise Manager のインストール

OEM の管理サービスと管理エージェントをインストールします。管理サービス は「1.JP1 の導入」で JP1/Base をインストールしたサーバーに、管理エージェント は OEM の監視対象(本手順書の場合は Oracle Database 12c Release 1 Enterprise Edition (12.1.0.2) がインストールされているサーバーにインストールします。 Oracle Enterprise Manager Cloud Control 13c Release1 (13.1.0.0.0) のインストール の手順については、「Oracle Enterprise Manager Cloud Control 基本インストレーショ ン・ガイド 13c リリース1 (13.1.0.0.0)」を参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E74608\_01/131/EMBSC/toc.htm

## 3. 連携機能の設定

OEM がアラートを検知した際に、JP1 のイベント登録コマンドが自動実行されるように 設定します。

このとき、OEM は JP1 のイベント登録コマンドを直接実行せず、シェルスクリプト(あるいはバッチファイル)を実行します。ファイル内で OEM のアラート情報を JP1 のイベント登録コマンドの引数に渡したうえでイベント登録コマンドを実行するように記述します。

## シェルスクリプトの作成

OEMがアラート検知時に自動実行するシェルスクリプトを作成します。以下に、 シェルスクリプトのサンプルを記載します。なお、下記シェルスクリプトは、以 下に示す Oracle Technology Network サイト内、Oracle Enterprise Manager 製品ペー ジの技術情報ページでも入手できます。

http://www.oracle.com/technetwork/jp/oem/enterprise-manager/community/index.html

sample.sh  $(\forall \mathcal{V}\mathcal{T}\mathcal{V})$ 

#!/bin/bash

```
# JP1 のイベント登録コマンド
main()
{ jevsend -i 999 -m "$JP1 MESSAGE" -e SEVERITY="$JP1 SEVERITY" -e
HOST="$JP1 HOST"
exit 0
}
# PATH 環境変数のセット
export PATH=/opt/jp1base/bin:$PATH
# アラート情報の受け渡し
# $SEVERITY, $HOST, $MESSAGE, $TARGET TYPE はいずれも
# アラート内容に応じて自動的にセットされる
export EM SEVERITY=$SEVERITY
export EM HOST=$HOST
# アラートメッセージに含まれる"を'に置換
export EM MESSAGE=`echo $MESSAGE |sed -e "s/¥"/¥'/g"`
export EM TARGET TYPE=$TARGET TYPE
# 通知テスト時に使用するダミーのアラート情報
if [ -z $SEVERITY ]
then
export EM SEVERITY=警告
fi
if
   [ -z $HOST ]
then
export EM HOST=サーバー名
fi
if [ -z $TARGET TYPE ]
then
```

```
export EM TARGET TYPE=ターゲットタイプ
fi
# JP1 のイベント登録コマンドに渡す引数の作成
export JP1 HOST=$EM HOST
export JP1 MESSAGE=OEM "$EM HOST" "$EM TARGET TYPE" "$EM MESSAGE"
# 重大度情報の変換
if [ $EM SEVERITY = "警告" ]
then
                             export JP1 SEVERITY=Warning
elif [ $EM SEVERITY = "クリティカル" ]
then
                             export JP1 SEVERITY=Critical
elif [ $EM SEVERITY = "クリア" ]
then
                            export JP1 SEVERITY=Information
elif [ $EM SEVERITY = "メトリックエラーの開始" ]
then
                            export JP1 SEVERITY=Error
elif [ $EM SEVERITY = "<br/>
yhtermine "
then
                             export JP1 SEVERITY=Information
else
                             export JP1 SEVERITY=Information
fi
main
```

本サンプルを使用する際は、9行目(以下に抜粋)を環境に合わせて書き換え、 JP1/Base インストール先フォルダ内の bin ディレクトリを PATH 環境変数に含めま す。

sample.sh 9 行目

|--|--|

また、本スクリプトは「2.Oracle Enterprise Manager の導入」で OEM 管理サービ ス、および JP1/Base をインストールしたサーバーに配置し、OEM インストールユ ーザが実行できるように権限を付与しておく必要があります。

なお、シェルスクリプトを作成する際のその他のポイントや注意事項について は、末尾の参考資料を参照してください。

## 通知メソッドの設定

OEMがアラートを検知した際の通知方法として前項で作成したシェルスクリプトを実行できるように、通知メソッドを構成します。

OEM にスーパー管理者ユーザーでログインし、「設定」、「通知」、「スクリプトと SNMPV1 トラップ」の順にクリックします。

	★お気に入り企▼ と履歴の▼		S	YSMAN	
	自動リフレッ	ターゲットの追加	▶ 04/2	8 12:49:24	JST 🖒
		拡張性	•		
		プロキシ設定	Þ		
		セキュリティ	Þ		
	J-11.++-15-	インシテント			
	電子メールのカスタマイズ	プロビジョニングとパッチ適用	▶メン	メンバー・ステ	
タイプ	スクリプトとSNMPv1トラップ	My Oracle Support	•	, , ,	×X
データベース・イン	ノスタンフ	ミドルウェア管理	▶ 0	0	0 0
	繰返しのグローバル設定	Cloud Controlの管理	Þ		
	通知スケジュール	コマンドライン・インタフェース			
		Management Pack	•		

「スクリプトと SNMPv1 トラップ」セクションで「追加」ドロップダウンメニ ューより「OS コマンド」を選択し「実行」ボタンをクリックします。

箇信するには、まずこれらを通知パンッドとして定義しておく必要があります。その後、管理者はこれらのパン・ボを・ さい。	追加 の5ネマンド	✓ 実行		
	タイプ	確認し通知のサポート		
(要があります。				

通知メソッドの名前と、この通知メソッドについての説明を ASCII 文字列で設 定します(説明の有無は任意)。また、OS コマンドとして前項で作成したシェルス クリプトをフルパスで指定します。

「OS コマンドのテスト」ボタンをクリックすることで、入力した OS コマンド をテスト実行することができます。このときの JP1 側の出力例を以下に示します。

JP1 Central Co	nsole(jpladmin@10.1	97.102.38)							
ファイル 編集 ま	示 オブション ヘル	J							
Integrated	Management	Ē	•		>	R 🗰 🗊 ?			
									8
表示範囲: 05/23	11:27:45 - 05/23 11:2	7:46							
表示フィルター	<b>議…</b> フィルター名	: 既存のフィルター	-	¥					□ 表示フィルター
奥約状態	重大度	<b>亚绿時</b> 刻	登録ホスト名	ユーザー名	イベントID	メッセージ	オブジェクトタイプ	アクション	
	<u></u> 활성	05/28 11:26:55	emcc.oracle12c.jp		00000399	OEM_サーバー名_ターゲットタイプ_これは、Oracle Enterprise Managerからのデスト・メッセージです。このメッセージを受信した場合、Enterpri			
( 11) 1 Elle 16	夏ノベント ノベント的								
1ペンド監視  重	<u>#1^2F]1^2F0</u>	x.m.j					1.00.00.00.00		

設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックすると、通知メソッドが作成されます。

	RACLE Enterprise Manager Cloud Control 13c	Enterprise(E) ▼
設定 スクリ Enterpr	プ <mark>トとSNMPv1トラップ</mark> ise ManagaがGSコマンド、PL/SQLプロシージャまたはSMMやラップにより連邦を送信するには、まずこれらを通知メッケドとして定義しておく必要があります。その後、管理者はこれらのメツナをイン MRXキラン学名として運用を送信するには、SMMPx2トラップ・ページに移動してくたさい。	シデント・ルールで使用できます。
表示	編集 削除	
遥択	名前	タイプ 🔺
۲	JPlevent	05コマンボ
С.	これらのメリッドを介して通知を送信するには、インシデント・ルールを作成する必要があります。	

以上で連携機能の設定は終了です。

## 4. 通知の設定

OEM で異常検知/アラート通知させたい監視項目を設定し、アラート発生時に「4. 連携 機能の設定」で設定した通知メソッドを実行するように設定します。

## しきい値の設定

OEM で異常検知させたい監視項目を設定します。ここでは「oradb」というデー タベース・インスタンスの TABSPC\_JP1 表領域の使用率が 75%になったら警告ア ラートを、90%になったらクリティカル・アラートを発生させるよう設定します。

> **ヒント**:複数のターゲットに共通のしきい値を設定する場合は、監視 テンプレートを使用して手順を簡略化することができます。設定方法に 関しましては、「設定」ページの「監視テンプレート」内のオンライン・ ヘルプをご参照ください。

OEM にログインし、「ターゲット」、「データベース」の順にクリックします。

	rprise Manager Cloud Control 13	ic .		Enterprise	(E) ▼
エンタープライズ・サマ	IJ				すべてのターゲット Ctrl+Shift+T
					グループ
概要	表示	すべてのターゲット(44)	~	▲ インベントリおよび使用状況	システム
ステータス				表示 Systems Infrastructure PDU V詳細	サービス
	ステータスのターゲット	26			ホスト
					データベース
					ミドルウェア
		■ 稼働中(	26)	**************************************	ビジネス・アプリケーション
			/		コンポジット・アプリケーション
	100%				
				▲ コンブライアンス・サマリー	
インシデント				標準 ターゲット	
	過去24時間以内に更新	1		the state of the s	
	過去7日以内に更新	2		用 ● コンプライアンス・スコア ○ 違反 № 間间の表示	
過去7日間に更新されたインシテ	シトのブレークダウン			名前	
カテゴリ		Ο 🛛 🔺	- P	表示するデータがありません。	
可用性			-		

設定対象(ここでは oradb)をクリックします。

ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 13c	Enterprise(E)	(() 9-97h) ▼	★ お知に入り回▼		D. •	Ö R	Ē(5) ▼	् 🌲	\$1.23	IAN 🔻	•••
データペース 」/5オーマンス ● 明瞭性 ● セキュリティ ■ スキーマ ● 管理 ● 表示 ○ データベースロードマッグ ● 検知/25				640.	לדיאדי	s 17	<b>v</b> ~=	ジーリフレッジ a 201	694/28 12	i\$9:12.351	Ð
4 秋雨 秋雨 8月 - ビー・ヘ											
表示▼ 十通知▼ ※前時 / 福成											
28 ·		417	7	ターヴァ	12	シデント	平均二	レプライアン	メンバ・ ス・サマ	-・ステー ミリー	9
			97	ジョン	•	Θ,	A 7.7	12	+ 1	* 1	X
≘ cab		データベース・イン	7307 🕇	12.1.0.2.0	0	0	0	N/A	0	0 0	0

-JP1 & Oracle Enterprise Manager: Notification Integration -

「Oracle データベース」、「モニタリング」、「メトリックと収集設定」の順にク リックします。

ORACLE <sup>®</sup> Enterprise Manag	er Cloud Control 13c			Enterprise(E) ▼   ③ターグット① ▼	★ お知に入り企 ▼ 🕒 歴歴 © ▼ 😨 数定 ⑤ ▼ 🔍 🌲
🕈 oradb 🚯					📑 nodel.oracle12c.jp 🛛 🖨
■ Oracleデータベース ▼ パフォーマンス ▼ 可	用性 ▼ セキュリティ ▼ スキーマ ▼ 管理	•			ページ・リフレッシュ 201
ホーム 2 新しいウィンドウでホーム・ページを開きます。		12日,20時 存曲時間	過去7日間の91用住 100%	,	2016/04/16 12:58:33 単純パマクアップ
モニタリング	▶ すべてのメトリック				
22965 191588	<ul> <li>メトリックと収集設定</li> <li>メトリックと収集設定</li> </ul>				
ジョブ・アクティビティ 情報パラリッシャ・レポート	ステータス履歴				
D9	▶ アラート履歴				
プロピジョニング グローニング	→ ブラックアウトとブラウンアウト				
構成 コンプライアンス	▶ 0 2:00 ⊕ 8k	12:10 午後	12:20 年後 12:30	0 午後 12:40 午後	12:50 年後 1:00
ターゲット設定 ターゲット・サイトマップ	* <i>∨−</i> ス				
ターゲット情報	QLモニター - 過去1時間				
高可用性	ステータ 期間 きえ スター	SQLID セッションパ	ラレル データベース時間		
✓ 最終バックアップ・ステータス	🥑 14.00 s	mphq355f5rah 14	3.20 s		

「表領域使用率(%)」の右側のボタンをクリックします。

メディア師書		- 92		.*	αι		Ø
一般的な操作エラー		- Rt		.*	αι		٢
▽ 遅延トランザクション						59 CE	
連延トランザクション・エラー表		>	0		αι		ll le la
濃減トランザクション表		>	100		αι		1
▽ 表領局2.5						15% 28	
表發短進用室(%)		>=	85	97	<b>u</b> l		٢
▽ 表領略フル(ディクショナリ管理)						30% 28	
表領塔使用宝(%)(ディクショナリ管理)		>=	85	97	αι		٢
⊗ ヒ★ しあい値を立にすると、その♪トリックのアラートは無効になります。							
間通りンク							
ターゲットを使用したモニタリング・デンプレートの作成 保留中の適用操作	過去の適用操作				高度なしきい価管理		

「追加」ボタンをクリックします。

	(). ************************************	BACK CHUR (SIJ)			编制 重要元
R¥ Mik					
a 照 表積機名	比較這些子	警告のしきい値	クリティカルのしまい値	你正知識	
● その他すべて	>=	85	97	なし	
ビントにあい値を空にすると、そのメリックのアラートは無効になります。 ビント オフションで、ワイルドカード大学「%」で雇用して損飲のオフジェクトを表すことができます ビント オフジョントなに「%」または「、ジョなまれている場合は、「%」または「\」と強定します(例:	(例:/u19は/u11./u12などを表します). 'c:\temp1は'c:\temp'と入力します)				

「表領域名」、「警告のしきい値」、「クリティカルのしきい値」を設定し、「続行」 ボタンをクリックします。

モニタ・	対象オデジェクト					
表には.	このメトリックについてモニターされているすべての表情解名オブジェクトがリストされています。各表様	場合オブジェクトに異なるしきい値数	定を指定できます。			(111)
						這加 如帶丸
編集	<b>a</b> ith:					
選択	表接相名	比較演算子	警告のしきい値	クリティカルのしまい値	你正姐姐	
۲	TABSPC_JP1	>=	75	90	al	
0	その絶すべて	>=	85	97	a.	
SEX SEX	「し形い値)を設にすると、そのメーリックのアラートは無効になります。 オブションで、ウイルドカード支まで%で変更して変更のタブジェンがを表すことができます(Mir /u1%) オブジェンかるに"%"または"「"が金まれている場合は、"「%"または"「"と値をします(Mir Collemptix コ	#/u11. /u12などを表します)。 'c:\\temp'と入力します)				
						DOM RET

「OK」ボタンをクリックします。

ORACLE' Enterprise Manager Cloud Control 13c			Enterprise(E) 🔻	© タ-ゲット① ▼	★ お気に入り(日)▼		O RED -	् 🌲	SYSMAN 🔻
🕈 oradb 🔀									nodel.oracle
■ Oracleデータベース ▼ パフォーマンス ▼ 可用性 ▼ セキュリティ ▼ スキーマ ▼ 管理 ▼									
データペース・インスタンス: oradb > メトリックと収集設定									
① 情報 設定は実見されていますが、リポットリに保存されていません。設定をおらに実見して10以オタンモクリックすると、データを保存でい	827.								
キリックと収集設定									
									RGB O
オリック 収集されたその他のアイテム									
メキリック 10年まれたその他のアイテム ダビンチ・パフォーマンス・メーリックに対する意なしまい他の夜見、またはターグナ・ホワークロードに巻ついてしおい他が変わるかりック 素示 [しまい個のあらみ・リック 文字 文白	クに対する時間ペースの夢的しきい値の東南を検討してくた	さい。「高炭なしきい価管理」ペー	ジでこれらのしきい値を構成	L <i>2</i> 7.					
メオリン 「桜まれたたち後のアイム ※ レキ・バフォーマンア、かりつと目するる後により、山の見見、またはラーグントのワークロードに着けれてしまい場が定わるホリン 第 「国本(山市るからンン 図案日 コイン酸(」「大口(2)」。 ※ レック	クに対する時間ペースの様的したい値の使用を決封してくだ ド朝津賀子	さい、「高炭なしきい価管理」ペー	ジでこれらのしきい値を構成  クリティカルのしまい鍋	0.7 MB	(5年 347-9)	n- Il			35
41-92 (安美市かた名称のグイキン など、インオージントかりつビドド支援におい場の使用、またはターグル-クロードに着ついてしたい場が変わるかり少 本目 (国大和な名かみクロン) (安美市) メイン(第4) (コーズイズにひ メーン(第4) (マーズ) メーン(第4) (マーズ) メーン(第5) (マーズ) メーン(第5	ウに対する時間ペースの静的し高い値の変用を検討してくが 比較講員子	さい。「高速なしきい価管理」ペー・ 警告のしまい価	ジでこれらのしきい値を構成  クリティカルのしまい値	します。 将正処理	収集スケジ	a-1/			<b>ii</b> 9,
AP320 (原東加た各価格の7年5.) なた (カキ・アン・カルックに目分差に) N・場合使用、または9・グナホウワークロードに着い、てしたい値が変わらホリック 高者 (上水・山本市らホリック) (図) 東古( まくに後、「すべて取ら) メーカンク マロかわか (おを20mg) マロかわか (おを20mg) マロかわか (おを20mg)	クに対する時間ペースの <b>掛</b> 切し訳い値の東岸を検打してく♪ 比較真量子	さい。「高美なしきい値管理」ペー・ 警告のしまい値	ジでこれらのしきい値を構成  クリティカルのしれい値	します。 帝正処理	(収集スケジ) 30分ごと	±−1			R.S.
41/20 (12年3月大午後のクイギム を、イバマーマンクメルクションクロビリを起しまい場合用、おけジーグメータウークロードに言いてしまい場所定れらかり少 単元 (12×10×10×20)(12)(12)(12)(12)(12)(12)(12)(12)(12)(12	211対する時間ペースの勝利し扱い値の単形を始ましてくれ 比較調査子 >	さい、「美美なしきい値管理」ペー 警告のしまい値 0	ジでこれらのしきい値を構成  クリティカルのし取い値	します。 帝正181章 なし	収集スケジ 30分ごと	a-16			85
41/20 (世界加たを980/7/4-2) ない、パラーマンクルリンクに目す登場にし、後の発見、または3-7/1-0/2-9/0-FEE 3/L でした、後の変わらかり少 本市 (正元484-5-5-07/2000) (単元) メイマ(145-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-5-	211日 学る研想ペースの勝句しまい値の東京を研打してい 上校 英語子 	はい、「英美なしきい価労使」ペー 警告のしまい価 0 0	ジでこれらのしきい値を開成  クリティカルのしまい値	#正知理 #正知理 なし なし	数集 25 ジ 30分 こと	a−1ŀ			85.
4100 (世界和大学6987/46) (全人パラーマンカリンクビ目す2番(人)、単の単用、また89-7/4-0/-20-7/2 単パンしみ・単の束りみやりつ 素(上への場合の大小シンク) (単)素() アンマ酸(上の小ンク) ジ ondo ジ ondo= ジ (小ンク) ダ (小ンク) ・ (シーク) ・ (シー) ・ (シーク) ・ (シー) ・	2011年7日4日~- 2018年0日、1日の秋田日本11日、15日 日本11日日 	さい、「黒美なしきい価値様」ペー 警告のしたい価 0 0	ジでこれらのしまい値を構成  クリティカルのしまい値	ます。 将正然瞭 なし なし	(明重 スケジ 30分ごと	±−14			85. //
41/20 (回来和たち980/7/4-2) (全人・パスサージンカリンクビドサ支急にも、場合使用、または3-7/4-0/2-01-FE営ついてしたい場が変わるやりン 高市 (上が14845-24-5/20) 「「大くて用しる」 メーシング ダ sold ♡ and ♡ and ○ (Anderso VacAS/20) ・ (本) ·	2015年まる時間ペースの勝利しまい住在後期を終わしてい 上部質量子 	さい、「黒美なしきい値管理」ペー 撃器のしきい値 0 0	ジでこれらのしまい個を構成  クリティカルのし取い個 	ます。 将正然瞭 なし なし	(約集 スケジ 30分 こと 無数	'a−∦			85.
4/32 (世界市内を1967/42)     (2)	2014年3548日~- 2018年11月、山の東南田村にてび 	さい、「黒美なしきい値管理」ペー 参告のしまい値 0 0	ジマこわらのしまい値を構成) クリティカルのしまい値 	はま. 市正地理 なし なし なし	(0集スケジ 30分でと 無助 開助	a-14			85.       

通知ルールの設定

アラートなどの(OEM の)イベントが発生した際に、前章で設定した通知メソ ッドを自動実行するよう通知ルールを作成します。ここでは「oradb で警告アラー ト、クリティカル・アラートが発生したり、アラートがクリアされた際に、前章 で設定した通知メソッドを実行する」ように設定します。

OEM にログインし、「設定」、「インシデント」、「インシデント・ルール」ボタン の順にクリックします。



ルール・セットの作成を選択します。

ORACLE	CONCINCE Enterprise Manager Cloud Control 13C     Low Exterprise Manager Cloud Control 14C     Low Exte							
インシデント・ル・ ルール・セットは、ターゲッ デントの更新、チケットの	インシテント・ルール - すべてのエンターブライズ・ルール ルール・セットは、ターダト、ジョブあどびデンプレートなどのオデムシかの共通セットに適用されるルールのコレジシュンです。ルールには特定のイベト、インデントまたは問題に対して実行される自動アジションのセットが含まれます。たど デントの夏紙 チケットの作気などのアジョンを実行できます。ルール・セットおどがルールは推定された調味で評価および適用されます。調味を変更するには、「ルール・セットの並替え」アジョンを使用します。 アグション ▼ 表示 ▼							
Concentration Analoge Concentration Inc     Concentration Concentration     Concentratin     Concentration     Concentration     Concentration     C	🗄 ብንポーት	土 エクスポート	≦ ルールのシミュレート	🦴 ルール・セットの並替え				
名前	シットは、ターゲット、ジョブあよびデンブレートは 酸酢、チケットの作成などのアクションを実行でき ン ◆ 表示 ◆ 1 1 ルール・セットの作成。 すべてのターゲットのインシデント管理ルール・セ	説明						
▶ すべてのターゲー	小のインシデント管理ルール・セッ	ト すべてのターゲットの~	(ンシデントをf	作成および管理するた	:めのルール・セット			
<ul> <li>自己更新のイベ</li> </ul>	ント管理ルール・セット 🔒	自己更新イベントを管	埋するルール・	·tzyh。				
▶ TEST								

ルール・セットの名前を任意の値で入力し、「適用先」ドロップダウンメニュー より「ターゲット」を選択します。「特定のターゲット」を選択し、「追加」ドロ ップダウンメニューより「ターゲット」を選択し、「追加」ボタンをクリックしま す。

インシデント・ルール - すべてのエンターブライズ・ルール ルール・セットの作成 レール・マットの作成 レール・マット シッテカン ジェブタンプレートなどのオブシンプトの共通セットに適用なれるルールウェムクラッシンです。ルールには特定のイーント * & 1 2971 2971 2071 2072 2	・インシテントまた1歳間値 ゴル 有効 図 所有 SYSNUX (5月57 者 う ① エンターブライズ 〇 個人達知	て実行される自動アクションのセットが含ま ▲ ルール・セットを注意する手具 ない、調味したタイクの面子 エックーラをパレールとたけ、イー このクロットルールとかり ・レーン・センクジルールとすます。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	れます。たとおは、名ルールにより、実信または変形されたくべ の・パンパラントたよび問題を受信すたとジスネージロとスを表 次在のユーザーロのみ電子メールを送信するに、ルンスネ ント・インソフトまたは問題のターゲットのセットを提供します。
ルール・セントの作成 いール・セントの作成 たいールではは、タージット、シャプおよびデンゴレーヤなどのオブジェクトの共通セットに適用されるルールのコムクシャンです。ルールには特定のイイント * 各 自 2011	<ul> <li>ハンシデントまたは問題はおし</li> <li>新加 2</li> <li>新加 2</li> <li>ダ () エンタープライズ 〇 個人達知</li> </ul>	て実行される自動アクションのセットが含ま メ ルール・セットを空気する手具 名前、20円にとなっくつな前に エンターブライズ・ルールドとかける、イ ことができます。個人語知いールセット ツース20- <b>グー・ジョンなどの高期</b> ルール・セットのルールに一致するイベ キュー名の説	れます。たとえば、各ルールにより、気信または支持されたべぐ の ・ の、インパディネスと問題を受けまえとジスラージロレンを見 は、現在のユーザーにの発音チントしを思想すため。ールに引 ハーイングディまたは問題のターゲットのを少くを受います。
レールーシルは、タージャト、(シェナルジジンジーレーンジンクログジンク)の戸道セットに適用されるルールのコレクシルンです。ルールには特定のイベント * &	<ul> <li>ヘンシテントまたは問題に対し</li> <li>有効 2</li> <li>所有 SYSMAN (使用方 者 SYSMAN (使用方 うく) ④ エンターブライズ 〇 個人通知</li> </ul>	て実行される自動アクションのセットが含ま よ ルール・セットを定義する手具 名前、辺明によびかく力の面定 エンタープライズ・ルール・セントは、イー こびできます。個人達知ルールセット ツーズは一クティージョンなどのの変映 ルールセントのルールに一致するイベ メール・セントのルールに一致するイベ	れます。たとえば、各ルールにおり、受信または更新されたイベ 目 ぐれ、インシデントあよび問題を登録するビジネス・プロセスを表 は、現在のユーザーにのみ電子メールを送信するルールに取 ント、インシデントまたは問題のターグットのセットを選択します。
* 6;   [001] 3001 2; -2/9: V	和効 ☑ 所有 SYSMAN 使用方 者 SYSMAN 注 ゴ ● エンタープライズ ○ 個人通知	メルール・セットを定義する手具 名前、説明によびなイゴの新定 エンターブライズ・ルール・セットは、イイ こだができます。個人は読いレール・セット ソース(ターグット・ジョブなどの)激化 ルール・セットのルールに二致するイベ リールの生きた。	₹ やト・インシテントあよび問題を登せするとジネス・プロセス支表 りは、現在のユーザーにのみ電子メールを送信するルールに取 ント・インシテントまたは問題のターグメトのセットを選択します。
		イベント、インシデントまたは問題に一里 ど)も特定します。	なする特定の条件を定義するルールを追加します。ルールは、 §
○すべてのターダット ○すべてのターダットのタイプ ● 特定のターダット 注加 ガープ ▼ + 300 × 100 500 500 500 500 500 500 500			
6月 912 か。代表が現在れていません			
<ul> <li>         ・         ・         ・</li></ul>			
▲ ルール ルールコス特徴のイベト、インケアトまたは認識に対して現代される自動アクションのセットが含まれます。たとえば、音ルールにおいまだまたはま にできます、ルールは認定された場合で可能なとび通用されます。調査を見ますらはは、バールの金装ムプクシュメを使用します。ルールに加たと アクション - 表示 - 単 作成. / 単語 - ※ 目目	更新されたイベント、インシデント: 変更し、「「保存」ボタンをクリックす	または問題に対して電子メールの送信、イン でまで保存されません。	ソンデントの作成、インシデントの更新、チケットの作成などのア:
	識明	連用先	アクション・サマリー
データが見つかりません			

検索などを行い、ターゲット(今回は oradb)を選択し、「選択」ボタンをクリック します。

5	ターケットの選択				>
	⊿ 検索				
	ターゲット・タイブ	データベース・イン	スタンス 🔻		
	ターゲット名				
	ホスト上				
	構成検索	⊲構成検索が選打	Rされていません>Q		
					培委
					快赤
	ターゲット名		ターグット・タイプ	ホスト上	ステータス
	oradb		データベース・イ	node1.oracle12c.jp	<b>†</b>
					モード 複数選択
					選択 取消

## 「作成」ボタンをクリックします。

ORACLE' Enterpris	se Manager Cloud Control 13c						
インシデント・ルール - すべ	、てのエンタープライズ・	レール					
ルール・セットの作成							
ルール・セットは、ターゲット、ジョブおよび デントの更新、チケットの作成などのアグ	バテンブレートなどのオブジェクトの共 ションを実行できます。	●セットに通用されるルールのコレクションです。ルールには特定のイ	ベント、インシデントまたは問題に対し、	て実行される自動アクションのセットカ	「含まれます。たとえば、各ルールにより、受信または更新	きれたイベント、インシ	デントまたは問題
* 名 前 275-トモJP1に道知 説明 適用 先 ターグット マ			柏助 ☑ 所有 SYSMAN 世用方 者 ST/SMAN 法 グ ④ エンターブライズ ○ 個人通知	ルール・セットを定義する 名前、29期またび9イクの第定 エンタープライズ・ルールトセルは ことができます。(3人参加ロール・ マースターダート・ショウなど)の為 ルールやセットのルールに一数すう ルールの20週 イベル、インシデントまたは認識 と)も病面します。	5年掲 エイベル、インデンたえて活動を支持するとジネフ・3 センバは、現在のユーザーにのみ電子ソールを送付するル 数 Sイベント、インシデントまたは活動のターゲットのセットを導 Sイベント、インシデントまたは活動のターゲットのセットを導 こここ数する時にの条件を定義するルールを追加します。ル	ロセスを表します。これ ーールンさして使用され 「読します。ターゲット」	ロニより、インシラ はす。 2外のソース(ジョ たときに実行さ
▲ ターヴット このルール・セットを取用するターグット ○ すべてのターグット ○ すべてのターグットのタイプ ● 特定のターグット 2010 ターグット → 1000	を選択します。有効範囲からは特定 ▼ ★ 前除	Dターグットひとえば、NgDenDB電調、比すべてのデータベースター	- グット)を除外できます。				
名前		917					
oradb		データベース・インスタンス					
▶ 除外されたターゲット なし	.)						
▲ ルール ルールコは特定のイベント、インタデン 化できます。ルールは指定された順序 アクション ▼ 表示 ▼ 1 個 個	小または問題に対して実行される自 で評価および通用されます。順序を5 <u>第</u> —   / 編集…   ─	がアジョンのセッドが含まれます。たとえば、各ルールにとり、受信ます。 変するには、「ルールの定替え」アジョンを使用します。ルールに加	しは更新されたイベント、インシデントま こた変更し、「「保存」ボタンをクリックす	たしは問題・ゴル・て電子メールの送信 るまで保存されません。	\$、インシデントの作成、インシデントの更新、チケットの作家	などのアクションを実	行できます。アク
名前			說明	通用先	アクション・サマリー	有効	最終更新日
データが見つかりません	-ルの21年2日]						

「受信イベントおよびイベントの更新」を選択し、「続行」ボタンをクリックし ます。



「追加」ボタンをクリックします。

ORACLE' E	nterprise Manager Cloud Control 13c					
ルール・セットの作成	┇ - アラートをJP1(こ通知					
•						
イベントの選択	アクションの適加 名前と説明の指定	確認				
新規ルールの作成	: イベントの選択					
タイプ * メトリック・アラー	۲ <b>ک</b>					
○ タイヺメトリック	<sup>&gt;・</sup> アラートのすべてのイベント					
③ タイプメトリック	フ・アラートの特定のイベント					
タイブメトリック・アラートの	の選択したイベント					
+ i8m / ##.	. 🗙 1952					
メドリック・グループ	メトリック			ターゲット・タイプ	重大度	オ
						選択済
メトリックかい道訳されてい	ほせん					
▶ 詳細た漫訳オードッ-	7.4					
ド計幅は世氏パンン:	12					

通知対象のメトリック、重大度を選択し、「OK」ボタンをクリックします。こ こでは、「メトリック・グループ」として「表領域フル」、「メトリック」として「表 領域使用率(%)」、「オブジェクト」として「TABSPC\_JP1」を選択しています。ま た、「重大度」は「すべて」を選択しています。

トリック	およびオプションのキ	ー値を選択するには、まずター:	デット・タイプを選択してから「検索」をクリックしま	す。	
ターク	デット・タイプ データベ	ミース・インスタンス 🖌 メトリック	名表検索		
選択	メトリック・グルー ブ	メトリック	オブジェクト	除外されるオブジェクト	
	表領域フル	表領域の空き領域(MB)	<ul> <li>         ・ すべてのオブジェクト(表領域名)         ・         ・ 選択         ・         ・         ・</li></ul>	·^	
	表領域フル	表領域使用率(%)	<ul> <li>○ すべてのオブジェクト (表領域名)</li> <li>● 選択 TABSPC_JP1 +</li> </ul>		
	表領域フル(一時)	表領域の空き領域(MB) (	<ul> <li>すべてのオブジェクト (表領域名)</li> <li></li></ul>	· · · · ·	
	表領域フル(一時)	表領域使用率(%)(一時)	<ul> <li>すべてのオブジェクト (表領域名)</li> <li></li></ul>		
	<			>	
重	大度と修正処理の すべて	ステータスの選択 ▼ 修正処3	<b>星のステータス [</b> ] クリティカルなメキリック・アラ [] クリティカルなメキリック・アラ	ートが成功しました ートで問題が発生しました	~
	🔽 クリティカル			ОК 取消	

通知の対象となるイベントが指定されました。「次」ボタンをクリックします。



**ヒント**:メトリックを複数指定することも可能です。その場合、指定 したいずれかのメトリックで指定した重大度のアラートが発生した場合 にアクション(後述)が実行されます。 「追加」ボタンをクリックします。



「拡張通知」に表示されている、「通知メソッドの設定」で設定した OS コマンドが表示される為、チェックを入れ、「続行」ボタンをクリックします。 元の画面に戻ったら、「次」ボタンをクリックします。

OR		prise Manager Cloud Centrol 13c 5YBMAN +	
アクシ	ョンの追加		
0	指定された条件に一致	帰金のみ705元25第15	^
세 <b>- 1</b> 2 - 수소	ンデントの作成または4 ノドに関連付けられてい	<b>ゲアカの変形</b> ンシデル材料は場合は、インシデルを行動し、オプラムンでインデンが原始を透発度を設定でます。インシデル材料なする場合は、インシデルを変形できます。	
	インシデントの作成(厳	USATU-5-Cシデナが45.時合) □ Cシデナの更新	
▲ 減加 通知 アドI	の送信 の受信者を書い当てま パスまたは事前定義済3	第回レストの放送剤はなのセンジンでのみ通知にはお料でできます。このルールをサラスつライブするユーザーは「CeUストに通知されます。このルールをサラスつライブ解剖するユーザーは「CeUストわら和軟体れます。諸語のユーザーを指定するははないででE 切ります。売貸剤にはEmerone Mangeユーザー、道理電子メール 基準定できます。	ł
4	警告		1
	電子メール・ゲートウェー	な気がれてい ほせん 電子メールは 光気がれません。	1
	基本通知		1
	電子メールの宛先	٩	1
	電子メールCc	٩,	1
	~-9	٩	
	転転通知 ターベットの40時時の5	ドーマシュロ (ターグ・ホーイン・スタッチョー)	1
	名前	18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20. 18-20.	ŝ.
	JPlevent (OS	) DP Levent Alarma	1
Þ	厳固、適加指定されて	teo	1
』 修正 ルー	<b>処理の発行</b> ル条件と一致した場合!	行する陽正処理を確認します。1つの原正処理のみが祥可されます。	
17	E処理の選択		1
<b>S</b> i	正処理では、谷ターグ	C2つび方を面下するために、STS3ALN (ルール・セット所有能の優先造成証明的)使用的にます。	
<i>▲ イベ</i> 大部 する	ン <b>トのクリア</b> 分のイベンドに対して、 ことはできません。この:	grana Manageral 経営の問題がリアされとうくとングを発出し、「くべくトゥンフィリミュル。ます。二トルウルイガイベントはこのオナルンを使用してソフテなとはてきません。ねお、ロデ・ファイルをマイニングして生成されるホトック・アラートなど一部のイベントなま、経営の問題が少り了されとうくとングをEntergrana Manageral 接当 カイベントは実体後で手術でジンプをも返到る少ます。このブンジンを使用することで、この時間は自動化できます。	i.
	完全にクリア		
1~	ノト・コネクタニ転送		~

任意の名前を入力し、「次」ボタンをクリックします。

ORACLE <sup>®</sup> Enterprise Manager Cloud Control 13c	SYSMAN 🔻 🚥
ルール・セットの作成 - アラートをJP1に通知	
新規ルールの作成:名前と説明の指定	置る ステップ34 次 戦調
* 名詞 表明的(TABSPC_1)通知 Tame	

設定が正しく行えていることを確認し、「続行」ボタンをクリックします。

ORACL	Enterprise	Manager Cloud Control 13c							1	SYSMAN -
レール・セット 〇一	〜の作成 - アラ ペ R アクシッピ	ートをJP1(ご通知) の適加 名称と説明の指定 WE2								
新規ルール	の作成: 確認								反る ステップ44 2	統行 取消
違訳内容をここで ▲ 選択したイ タイカキリック	躍怒し、必要な場合に イベント アラートの選択したイ	は「戻る」をクリックして虚称の浴を変更します。 ペント						./11.	ár : in Mir	75-07
メトリック・ウ	ヴルーブ ;	やりック			ターヴット・タイプ	重大度	選択済	E./F 19859	クリティカルの場合	著者の場合
表領域フル		N编板使用率(%)			データペース・イ	クリア 潜告 クリティカル	TABSPC_JP1	なし		
<i>▲</i> アクション										
地序	条件サマリ	-	アクション・サマリー							
1	追加の条件に	は推定されていません	・ TPleventの軒出し							
⊿ 名前と説明	я									
名前 表领域(T	TABSPC_1)法参加									
展明										

設定が終了したら、「保存」ボタンをクリックします。

ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 13c						\$1	ISMAN 👻 🚥
● 情報 ルール/実験紙(TABSPC_1)通知は現在のルール・セットに正知に該加込れました。「详存」ギタンをクリックするまで、新規に面加込れたルールはま	保存されません。						×
インシデント・ルール - すべてのエンタープライズ・ルール							
ルール・セットの作成							保存取消入
ルール・セントは、ターゲット、ジョブあよびテンプレートなどのオプジェクトの共通セットに適用されるルールのコレクションです。ルールには特定のイベ シデントの運動、チケットの内容などのアクションを実行できます。	ント、インシデントまたは問題に対し、	て実行される自動アクションのセットが含まれます	。たとえば、音ルールにより、受信または更新	されたイベント、イ	ンシデントまたは問題に対して電子	マールの送信、インシデ	ントの作成、イン
* 条 75-1%P1()通知	和助 🗹	▲ ルール・セットを定義する手順					_
201	所有 SYSMAN 使用方	名前、説明および身イブの指定	イル・デルホンス環路を登建するとジネス・コ	わた2をあします	これにおしてパデントの作成本	は7原新を含むすべて/	カアウションキ
	ダ ●エンタープライズ	行うことができます。個人適知ルール・セットに	1、現在のユーザーにのみ電子メールを送信す	るルールに対して	使用されます。		
MB	(周人)調明	ルール・セットのルールに一致するイベント、イ	(ンシデントまた)は問題のターゲットのセットを述	<b>留沢します。</b> ターゲ	ット以外のソース(ジョブなど)も選択	できます。	
	無効である理由	ルールの適加 イベント、インシデントまたは問題に一致するれ など)も特定します。	特定の条件を定義するルールを適加します。パ	レールは、桑仲が	・致したときに実行されるアグション	(電子メール送信、インシ	デントの作成
CON	ゲット送降外できます。						
▲ ルール ホールス時間のパイト、インデン注意に認識になって時代的に自動アクシュンのからが発見れます。たただは、名川・バスとは、気量を改 加たできます。ルールは重要されな影響を目的を起こ場を見ます。前やまたまでおはよりルールの正要なパクシルンを使用します。ルールに加 アクラルン ・ 表示 ・ 注 作成	は更新されたイベント、インシデントま 見た変更し、「保存」ボタンをクリック	EDは問題されて電子メールの逆信、インシデン するまで保存されません。	小の作成、インシデントの更新、チケットの作用	<i>乾</i> などのアクション	を実行できます。アクション・メニュー	ーを使用してルールを有	勃化または美
名前	設明	通用先	アクション・サマリー	有効	最終更新日	最終更新者	タイプ
表编版(TABSPC_1)通知		特定のパリック・アラートイベント		131.1	2016/05/31 17:16:02 JST	SYSMAN	1101

実際にクリティカル・アラートが発生した際の、JP1/IM-View のイベントコンソール画面の例を、以下に示します。

19.21 Control Const (p Intern 1117) 112 10 フィイル ( 編集 第二 オブション へ み づ	_D×
Integrated Management 🛛 💼 🚱 🗢 💷 📴 👔 🗾 7	
RTME: 6/08 10:01:01 00	8
③示フィルクー編算 フィルクー名: 【取のフィルクー ▼	□ 表示フィルター
単数株式         単数株式と名         ユーザー名         イベント目         メッセージ         オブジェクトタイブ         アクション	
22 8091 00/3 1/1/1/49 #60/2011/1/1/9 000091 00.5/-1/2.3/3/0101 00.5/2011/1/40/2012/2011/1/40/202/2011/1/40/202	
イベント転用「重要イベント」イベント映象	

表示されたイベントをダブルクリックすると、イベント詳細画面が表示されま す。

務イベント詳細 - イ	ペントコンソール		
			<b>前イベント</b> 次イベント
イベント属性	<ul> <li>腐性名</li> <li>イベントDB内通し番号</li> <li>イベントID</li> <li>発行元プロセスID</li> <li>登録時刻</li> <li>到着時間</li> <li>発行元ユーザーID</li> <li>発行元ユーザーA</li> <li>発行元ブループID</li> <li>発行元イベントサーバ名</li> <li>発行元IPアドレス</li> <li>発行元イベントDB内通し番号</li> <li>4</li> </ul>	爾性値 22590 00000999 17943 05/25 12:38:45 05/25 12:38:45 05/25 12:39:36 54321 54321 oracle oinstall emcc.oracle12c.jp 54	
メッセージ	DEM_サーバー名_Database Ins	tance_表領域[TABSPC_JP1]は[94.06パーセン	עכני
ガイド	アラートの詳細については い。事象発生元サーバは、 問い合わせ先:XXX(内緒	まOracle Enterprise Managerコンソール( サーバー名。 泉)	(下記) からご確認下さ
	- ダー 延動 アクション結果	1 ユンシテント登録 開じる	

ヒント:通知ルールの設定は、ターゲットタイプごと、ターゲットご と、監視項目ごとなどに個別に行うことができます(例:データベース・ インスタンス用と Oracle WebLogic Server 用、データベース・インスタン ス1 用とデータベース・インスタンス2 用、アーカイブ領域使用率用と バッファキャッシュヒット率用など)。それぞれのルールで、通知対象と なる監視項目や重大度(警告、クリティカル、クリア)を個別に設定す ることができます。

以上で通知の設定は終了です。

# 参考資料

## JP1 のイベント登録コマンドの使用方法

前述したシェルスクリプト内のjevsend コマンドの使用方法の詳細に関しましては、下記 URL をご参照ください。

JP1 Version 11 JP1/Base 運用ガイド 解説・手引・文法・操作書(資料番号 3021-3-A01) 15. コマンド

http://itdoc.hitachi.co.jp/Pages/document\_list/manuals/jp1v11.html

シェルスクリプト作成時のポイント・注意事項

## 環境変数を使用したアラート情報の受け渡し

シェルスクリプト内では、JP1 イベント登録コマンド(jevsend)を実行します。 その際、OEM のアラート情報の中から JP1/IM のイベント登録に必要なものを引数 に渡します。

OEM のアラート情報は、OS コマンド (本シェルスクリプト) を実行する際 に自動で環境変数に格納されています(例:\$HOST→アラート発生元のホスト名、 \$MESSAGE→アラートメッセージ、など)。

次の例では、この中から\$HOST、\$SEVERITY(アラートの重大度)、\$MESSAGE を JP1 のイベント登録コマンドの引数に渡しています。

例:

jevsend -i 999 -m "\$MESSAGE" -e SEVERITY="\$SEVERTY" -e HOST="\$HOST"

## sed コマンドを使用した「"」記号の置換あるいは削除

JP1 にイベントを登録する際、メッセージ内容となるテキストに「"」が入って いると、メッセージの終了と認識されてしまうため、事前に他の記号に置換しま す。次の例では、「"」を「'」に置換しております。

## 例:

export EM MESSAGE=`echo \$MESSAGE |sed -e "s/¥"/¥'/g"`

#### PATH 環境変数の設定

JP1 のイベント登録コマンド (jevsend) を実行する際は、PATH 環境変数に JP1 インストール先である/opt/jp1base フォルダ内にある bin ディレクトリが設定され ている必要があります。シェルスクリプト内であらかじめ PATH 環境変数を設定し ておきます。

#### 例:

export PATH=/opt/jp1base/bin:\$PATH

#### 重大度情報の変換

環境変数に格納されるアラート情報のうち重大度(**\$SEVERITY**)については、 OEM の管理サービスが日本語で起動している場合、「警告」「クリティカル」など 日本語で格納されるため、シェルスクリプト内であらかじめ JP1 用の重大度に変 換を行います(例:「警告」(OEM) → 「Warning」(JP1)など)

例:

if [ \$EM\_SEVERITY = "警告" ] then export JP1 SEVERITY=Warning -JP1 & Oracle Enterprise Manager: Notification Integration -

OEM の管理サービスを英語で起動している場合は、重大度も英語で出力される ため、それに合わせて記述します

例:

if [ then	<pre>\$EM_SEVERITY = "Warning" ]</pre>
	export JP1_SEVERITY=Warning

## メッセージの記述方法

JP1/IM-View 上に表示させるメッセージ は、引数"-m"に渡す値の編集により、 カスタマイズすることができます。例えば、以下の例では、メッセージの先頭に OEM から登録されたイベントを示す「OEM」と、ホスト名を付けています。 ホスト名は\$HOST 環境変数に格納されています。

#### 例:

export JP1 MESSAGE= OEM "\$HOST" "\$MESSAGE"

#### シェルスクリプトのカスタマイズ

OEM が OS コマンド (シェルスクリプト)を実行する際には、ほかにもさまざ まなアラート情報が環境変数に格納されており、要件に応じて JP1 にさまざまな 情報を送ることができます (\$METRIC\_VALUE→しきい値を超えたときの監視項 目の値、\$TIMESTAMP→発生時刻、など)。

受け渡すことのできる環境変数の詳細については以下を参照してください。

Oracle Enterprise Manager Cloud Control 管理者ガイド 13c Release1 (13.1.0.0.0) OS コマンドおよびスクリプトを使用した通知の送信

http://docs.oracle.com/cd/E74608\_01/131/EMADM/toc.htm

## JP1 のイベント登録コマンドの使用方法

イベントガイド情報は、システム監視中に問題が発生したときに、JP1 イベントの[イベント詳細] 画面に表示する情報です。イベントガイド情報として、問題の調査事例、対策事例などを表示することで、システム管理者の負担を軽減できます。また、問題対策での実績や対処記録などを、運用ノウハウとして蓄積できます。イベントガイド情報として表示する内容は、JP1/IM - Manager のホストにあるイベントガイド情報ファイルに設定します。

イベントガイド情報の使用方法の詳細に関しましては、下記 URL をご参照ください。

JP1 Version 11 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド 解説・手引・操作書(資料番号: 3021-3-A07-10)

3. セントラルコンソールによるシステムの集中監視

3.10 イベントガイド機能

http://itdoc.hitachi.co.jp/Pages/document\_list/manuals/jp1v11.html

## イベントガイド情報ファイルの登録

イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt) のサンプルを,以下に示します。 この例では,OEM から発行される JP1 イベントのイベント ID「00000999」をキー とし、イベントガイド情報を表示しています。

```
例:
```

DESC\_VERSION=1

#ORACL EM **異常検知イベントに対するガイド** [EV\_GUIDE\_1] EV\_COMP=B.IDBASE:00000999 EV\_FILE= [END]

## イベントガイドメッセージファイルの登録

上記のイベントガイド情報ファイルに加え, JP1/IM-View 上に表示されるイベン トガイドメッセージを定義するイベントガイドメッセージファイル (EV\_GUIDE\_1.txt)のサンプルを,以下に示します。

この中では、OEM から発行される JP1 イベントの拡張属性情報から, \$HOST を 引き継ぎ,事象発生元サーバとしてイベントガイドメッセージ上に表示していま す。 -JP1 & Oracle Enterprise Manager: Notification Integration -

また,斜体部分「OEM 管理コンソールの URL」は,それぞれの環境に合わせ, 適切な URL に変更してご利用ください。

例: <

イベントガイド情報ファイル (jco\_guide.txt)、およびイベントガイドメッセージ ファイル (EV\_GUIDE\_1.txt) を定義し, OEM から発行された JP1 イベントの詳細 を JP1/IM-View 上で表示した場合の画面例を,以下に示します。

赫イベント詳細 - イ	ペントコンソール	
		<b>前イベント</b> 次イベント
イベント属性	<ul> <li>届性名</li> <li>イベントDB内通し番号</li> <li>イベントID</li> <li>発行元ブロセスID</li> <li>登録時刻</li> <li>到着時間</li> <li>発行元ブーザーID</li> <li>発行元ブーザー名</li> <li>発行元ブルーブー名</li> <li>発行元イベントサーバ名</li> <li>発行元イベントサーバ名</li> <li>発行元イベントサーバ名</li> <li>発行元イベントDP内通L番号</li> </ul>	爾性値       22590       00000999       17943       05/25 12:38:45       05/25 12:39:36       54321       oracle       oinstall       emcc.oracle12c.jp       54
メッセージ	▼ DEM_サーバー名_Database Ins	
ガイド	アラートの詳細については い。事象発生元サーバは、 問い合わせ先:XXX(内緒	まOracle Enterprise Managerコンソール(下記)からご確認下さ サーバー名。 泉)
ŧ	ター起動 アクション結果	- インシデント登録 閉じる ヘルブ

Copyright© 2017, Oracle. All rights reserved.

このドキュメントは単に情報として提供され、内容は予告なしに変更される場合があります。このドキ ュメントに誤りが無いことの保証や、商品性又は特定目的への適合性の黙示的な保証や条件を含め 明示的又は黙示的な保証や条件は一切無いものとします。日本オラクル株式会社は、このドキュメント についていかなる責任も負いません。また、このドキュメントによって直接又は間接にいかなる契約上 の義務も負うものではありません。このドキュメントを形式、手段(電子的又は機械的)、目的に関係な く、日本オラクル株式会社の書面による事前の承諾なく、複製又は転載することはできません。

Oracle は、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国に おける登録商標または商標です。他社名又は製品名は、それぞれ各社の商標である場合がありま す。